

特定非営利活動法人ビラーンの医療と自立を支える会**1 事業の総括****1) 助成を受けて実施の環境保全関連事業について**

事業計画で触れたように、今年度はミンダナオのさらなる治安悪化への懸念もあって、山岳部の事業モニターが必須の環境保全分野の新規申請は取りやめた。一方で、助成決定の事業、及び、前年度からの継続事業計 2 件の適正な実施に努めるとともに、過去に助成を受けて実施した 20 件余のアグロフォレストリー事業の評価活動を目指した。助成事業 2 件は 2018 年 6 月及び 2019 年 3 月末にそれぞれ予定通り完了したが、後者の成果確認活動は、パートナー団体 PFP の担当者離職などにより実施できなかった。

環境保全と持続可能な収入向上に有効なアグロフォレストリー事業は、当団体の SDGs の一つ「気候変動に具体的な対策を」に貢献する分野であり、次年度はこの評価活動に注力したい。

2) 医療・保健事業

母子医療の集大成と位置付ける助産所開設事業は、出産介助数は順調に増加し、母子の死亡率減少に貢献しているものの、貧困世帯の医療保険加入率が低いため、医療保険収入の不足分を会費や寄付を充当して支えた。現地パートナー PIHS 及び当団体の見通しの甘さは否定できないが、自立へのシナリオは現地与共有しており、限定的支援の継続で、1-2 年後の完全自立に期している。

3) 教育・人材育成事業

支援会員の高齢化による原資の減少や、一方で、山岳部先住民族の現金収入が徐々に増えて、月 100 円ほどの初等教育授業料支援のニーズは減少したとの理解に基づいて、現地パートナーにも、2020 年度以降の支援方針として、初等教育分野は給食支援に限定し、一方でニーズの大きいカレッジ奨学金拡充への切り替えを示唆した。しかし、教育支援最大のパートナー・SCMSI についてはまだ同意を得ていない。

4) 広報啓発を目的とする国内活動、及び、事務局運営

事務局の世代交代に関しては、月例会で課題を共有するとともに、ネット NGO などに助言を求めるなど、随時機会をとらえて解決策を模索してきたが、まだ見通しはたっていない。

また、専従及び非専従計 2 名の事務局スタッフはともに、家庭の事情などで、最小限の事務作業をこなすだけで終わり、新ボランティアスタッフ・長瀬アガさん提案の勉強会開催など、若い世代の参加が期待できる新規の広報啓発イベントは実施できなかった。一方で、ホームページ更新、会報発行は従来どおり行い、充分ではないが、支援会員や市民と現地情報の共有ができた。

2 各事業分野における活動報告**1) 保健・医療****① CMIP と協働の事業**

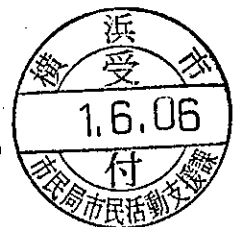
奨学生（約 50 名）や給食支援対象 4 小学校の児童が病気やけがで学業を中断することがないように、常備薬購入費として 1 万ペソ（約 2.2 万円）支援した。幸い重篤なケースへの支援要請はなかった。

② PIHS と協働の事業

総括でも特記した助産所開設事業は、保健省や医療保険局の承認を得て、出産介助 38 例の実績を上げ、自宅出産のリスク軽減に寄与したが、保険診療患者に対する保険局からの支払いだけでは、有資格出産介助産師（プロバイダー）2 名の給与を賄うことができず、当団体は医療支援会費や寄付金を充当するなど、予算を大幅に上回る支援を行った。PIHS もこの医療保険からの支払い増加のため、未加入者が多い貧困妊産婦の保険加入推進のためのコミュニティ研修に力を入れた。

2) 教育・人材育成**① 初等教育支援**

* ビラーン等貧困家庭の児童 17 名に、各年額約 2,500 円の奨学金支援(CMIP と協働)



- * CMIP 運営の小学校（4校）児童約500人週3回の給食費補助として23万円支援（CMIPと協働）
 - * 住民組合立ブラール小（約80名）教師3名中2名の給与相当分と給食費計27万円支援（PFPと協働）
 - * SCMSI校支援（教師7名分給与相当）と里子10名の校納金相当支援計172万円（SCMSIと協働）
- ② 中等教育支援：
- * ハイスクール生18名に各年額1.2万円の奨学金支援。（CMIPと協働）
 - * SCMSIハイスクール里子30名の校納金相当（推定年額各8千円）支援。（SCMSIと協働）
- ③ 高等教育支援：
- * カレッジ生7名に各年額6.1万円の奨学金支給（うち新規卒業は2名）。ダバオ医科大学暫定2年ジェニー奨学金53万円支給（平賀奨学金）（CMIPと協働）
 - * SCMSIカレッジ里子5名の授業料相当（推定各年額7千円）支援。SCMSI校出身外部カレッジ生9名の奨学金支援（各年額4.8万円）。新規卒業SCMSIカレッジ4名。外部大学3名。（SCMSIと協働）
 - * あしなが奨学金（ホモック町出身ロサリン及びツピ町出身ジェイク2名各年額5.3万円）（PFP経由）
- ④ 看護師育成 JOFPA 基金奨学生：

PIHS 推薦モナリサと、SCMSI 推薦ゴルディ・マリの計2名に、各年額12万円を支給。ゴルディは3月に卒業。助産師コースに変更のモナリサは1年次終了予定。週末は実習を兼ねて助産所勤務。

3) 農村開発及び環境保全の活動

山岳部先住民族の村で実施のアグロフォレストリーは、環境保全と農村開発両分野に該当するが、農業専攻の元奨学生ボニファシオが住民組織育成を含めた活動をしているボルールは農村開発分野にした。

なお、イオン環境基金の助成を受けたツピ町ブナオの事業は、諸事情で、同町のクロッドに変更、事業開始が7月と出遅れたが予定通り3月末に完了した。

<支援実績>

- ① コロナダル市バランガイ・アサンプション（ビラーン名ボルール）で、急傾斜地に在来種4500本、竹800本、生産区30世帯計30haにココヤシ、コーヒー、バナナ及び果樹苗合計6750本の植栽、理念技術研修からなる事業を実施。6月完了時まで2回の手入れを終了した。（緑の募金助成・PFPと協働）
- ② ツピ町クロッドの急傾斜地に竹や在来種3500本、受益者26世帯の緩傾斜地の畑に、各種果樹、ココヤシ他計5,735本を植え、理念技術研修、手入作業も終了した。（イオン環境財団助成・PFPと協働）

4) 女性自立支援の活動

- ① COWHED 支援：マニラを含めた国内市場の開拓が進み、チボリの伝統継承の拠点と評価されるようになったCOWHEDは、7月にはミスユニバースフィリピン代表が店舗を訪ねて刺繍を体験する等、製品の販路拡大については当団体の役割はほぼ終了したが、継続の要請があったカレッジ奨学生1名と、年2回の現況報告担当者への手当計1.6万ペソ（3.5万円）を支援した。販路拡大ニーズはほぼなくなったが、COWHED製品は靴型キーホルダー他ティナラク小物を中心に人気があり、2回製品を仕入れた。
- ② ビラーンの伝統織ナバルタビ事業：当初ナバルタビプロダクションNTP共同代表のスヌーリアに委託した「織の家」修復を含む伝統織継承と収入向上事業は、スヌーリアの指導力不足が判明し、助成機関「WE21 ジャパンみどり」の承認を得て、同地域の青年リーダー・ジェオが組織した住民グループに委託、事業期間も8月末まで延長した。9月以降も第2期目として助成継続が決まり工業用ミシンを支援した。
事業担当ボニファシオ3月11日付報告によると、織が4本完成（1本販売）、マロン7枚、トゥバウ35枚完成（各2枚、10枚販売済み）。地元やマニラのバイヤーに人気があり、時に生産が間に合わないこともあり、研修参加希望が続いている。事業で植えたアバカは95%が活着順調に生育している。

5) 広報・啓発の活動（国内の活動）と事務局運営

- ① ホームページ：会報の公開、お知らせ欄更新など、担当の高山理事を中心に進めた。
- ② 季刊「ビラーン通信」（93-96号）は各6ページ300部発行した。
- ③ NGO関係フェスタ（グローバルフェスタ、よこはま国際フェスタ、あーすフェスタかながわ）、バザー（鷲沼・菊名・鎌倉）など、計6回参加し、特にフェスタではミンダナオ島の伝統的ハンディクラフト紹介・販売とパネル展示他広報活動に力を入れた。2月開催の「よこはま国際フォーラム」では「ミンダナオ先住民族の初等教育普及と人材育成」をテーマに報告を行った。ブース出展にも参加、ハンディクラフト販売をした。
- ④ 事務局体制：専従スタッフ1名・非専従1名（ともに有給）で、支援会費を原資とする医療や教育支援事業のほか、3件の助成金事業の管理・報告作業に当たった。広報活動に関してはホームページ原案作成・会報の編集を担当した。なお、新規にボランティアスタッフに加わった長瀬アガ（無給・交通費支給）は、例会参加による現地情報、特に助産所近況の共有と、8月には現地事業モニターを担当した。

なお、会報校正担当の社員会員・相田さんの3月末現地訪問の機会に、各種事業モニターを依頼した。

注：CMIP（Catholic Mission to the Indigenous People, inc）

COWHED(Cooperative of Women in Health & Development)

PIHS(Pasasambao Integrated Health Service, Inc.)

PFP(Partners for First Peoples Foundation, Inc)

SCMSI(Santa Cruz Mission School Inc.)

NTP(Nabal Tabih Production)

平成30年度活動計算書 (平成30年4月^{1日}～平成31年3月^{31日})

特定非営利活動法人ピラーンの医療と自立を支える会

I 経常収益の部

単位:円

	科目	予算額	決算額	差異	摘要
経常収益	受取会費(社員会費)	270,000	238,000	32,000	年6,000円 x 39口 他 月500円 x 8か月
	寄附・医療自立支援	576,000	446,000	130,000	年12000円 x 36口 他 月1000円 x4か月
	寄附・教育支援	5,300,000	4,994,600	305,400	チホリ里子・SCMSI校・チホリカレッジ支援258万、ピラーン各種奨学金・教育全体112万、 医大特別奨学金100万、ブラクール・あしなが27万 その他
	寄附・一般	1,000,000	1,684,982	▲ 684,982	助産所50万、ヤギ・水道・水牛支援42万、及びクリスマスプレゼント等使途特定寄付他一般寄付
	(受取寄附合計)	6,876,000	7,125,582	▲ 249,582	
	受取助成金	1,565,000	1,635,161	▲ 70,161	イオン環境財団助成金100万円 WE21ジャパンみどり支援金10万円、緑の募金交付金清算分535,161円
	事業収益	120,000	101,947	18,053	ハンディクラフト事業収益
	雑収入	1,000	1	999	三井住友銀行預金受け取り利息
	経常収益計	8,832,000	9,100,691	▲ 268,691	

II 経常費用の部

	科目	予算額	決算額	差異	摘要	
事業費	医療・衛生事業費	530,000	1,046,798	▲ 516,798	PIHS:助産所支援(給与補助)62万円。ヘルス研修財源支援35万他。CMIP奨学生医療費2万円	
	人材育成事業費	5,050,000	4,686,559	363,441	SCMSI(学校運営170万他計214万)PIHS(モナリサ助産師コース奨学金14万) CMIP(医大生含むカレッジ奨学金120万他計183万) PFP(ブラクール20万他計40万)クリスマスプレゼント11万	
	農村開発事業費	140,000	246,784	▲ 106,784	ホール収入向上、環境保全の森林農業14万(6月終了)、水牛プロジェクト約5万円、PFPへPC支援約5万円	
	環境保全事業費	1,187,000	1,088,899	98,101	ツピ町クロード地区112万(うちイオン財団100万)	
	女性自立事業費	137,000	287,233	▲ 150,233	ナバル社事業(WE21みどり支援・8月末終了)7万。継続分16万。COWHED支援4万	
	広報啓発事業費	150,000	101,134	48,866	(グローバル・あーす・よこはま各フェスタ・フォーラム)参加費4万、HP更新謝礼6万	
	予備事業費	100,000	0	100,000	フィリピン台風被災者支援(JPN経由で寄付予定が、JPNの判断で取りやめた)	
	事業費計	7,294,000	7,457,407	▲ 163,407		
	管理費	人件費	750,000	284,000	466,000	専従スタッフ、非専従スタッフ各1名
		通信費	200,000	189,146	10,854	NTT、会報発送全4回分切手代ほか
旅費・交通費		140,000	264,618	▲ 124,618	ボランティアスタッフ交通費(2名分約10万)・現地モニター8月渡航費(11万)、車借り上げ代他	
印刷・出版費		60,000	68,000	▲ 8,000	会報93-96号4回分印刷代(各回6ページ)	
会費・会議費		55,000	51,480	3,520	日比NGOネット(JPN)1万、横浜NGOネット(YNN)5千円、JANIC3万円他	
手数料		10,000	11,908	▲ 1,908	海外送金手数料ほか	
消耗品費		30,000	28,958	1,042	インク代、印刷用紙、封筒、領収書用紙他	
事務局賃借料		120,000	120,000	0	事務局賃借料	
保険料		15,000	1,102	13,898	労災保険(専従、非専従各1名分)、年度内海外旅行保険(JANIC経由支払い無し)	
管理費計		1,380,000	1,019,212	360,788		
経常経費計	8,674,000	8,476,619	197,381			
H30年度末正味財産増減	158,000	624,072				
H29年度繰越正味財産	714,696	714,696				
H30年度末正味財産額	872,696	1,338,768		JOFFA基金残額415,129円含む		

貸 借 対 照 表

平成31年3月31日現在

特定非営利活動法人 ビラーンの医療と自立を支える会

科 目	金 額
I 資産の部	
I 流動資産	
現金預金	1,338,768
流動資産合計	1,338,768
2 固定資産	
固定資産合計	0
資産合計	1,338,768
II 負債の部	
1 流動負債	
前受け金	0
流動負債合計	0
2 固定負債	
固定負債合計	0
負債合計	0
III 正味財産の部	
正味財産	
前期繰越正味財産額	714,696
当期正味財産増加額	624,072
正味財産計	1,338,768
負債及び正味財産合計	1,338,768

財 産 目 録

平成31年3月31日現在

特定非営利活動法人 ビラールの医療と自立を支える会

科 目	金 額
I 資産の部	
I 流動資産	
現金預金	
現金手許有高	54,854
普通預金 三菱東京UFJ銀行青葉台駅前支店	914
三井住友銀行青葉台支店	1,058,744
ゆうちょ銀行	55,305
郵便振替口座	168,951
流動資産合計	1,338,768
2 固定資産	
固定資産合計	0
資産合計	1,338,768
II 負債の部	
1 流動負債	
助成金前受金	0
流動負債合計	0
2 固定負債	
固定負債合計	0
負債合計	0
正 味 財 産	1,338,768